

地域密着型サービス施設・事業所集団指導

～平成 24 年度介護報酬改定の概要～

介護職員処遇改善加算

平成 24 年 3 月

香川県 健康福祉部 長寿社会対策課
高松市 健康福祉部 介護保険課

介護職員処遇改善加算

介護職員の処遇改善等に関する見直し

介護職員処遇改善交付金相当分を介護報酬に円滑に移行するために、例外的かつ経過的な取り扱いとして、平成27年3月31日までの間、介護職員処遇改善加算を創設する。なお、平成27年4月1日以降については、次期介護報酬改定において、各サービスの基本サービス費において適切に評価を行うものとする。

介護職員処遇改善加算（Ⅰ）（新規） 所定単位数にサービス別加算率を乗じた単位数で算定

介護職員処遇改善加算（Ⅱ）（新規） 介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の90/100

介護職員処遇改善加算（Ⅲ）（新規） 介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の80/100

<サービス別加算率>

サービス	加算率
（介護予防）訪問介護	4.0%
（介護予防）訪問入浴介護	1.8%
（介護予防）通所介護	1.9%
（介護予防）通所リハビリテーション	1.7%
（介護予防）短期入所生活介護	2.5%
（介護予防）短期入所療養介護（老健）	1.5%
（介護予防）短期入所療養介護（病院等）	1.1%
（介護予防）特定施設入居者生活介護	3.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4.0%
夜間対応型訪問介護	4.0%
（介護予防）認知症対応型通所介護	2.9%
（介護予防）小規模多機能型居宅介護	4.2%
（介護予防）認知症対応型共同生活介護	3.9%
地域密着型特定施設入居者生活介護	3.0%
地域密着型介護老人福祉施設	2.5%
複合型サービス	4.2%
介護老人福祉施設	2.5%
介護老人保健施設	1.5%
介護療養型医療施設	1.1%

（注1） 所定単位数は、基本サービス費に各種加算減算を加えた総単位数とし、当該加算は区分支給限度基準額の算定対象から除外する。

（注2） （介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、（介護予防）福祉用具貸与並びに居宅介護支援及び介護予防支援は算定対象外とする。

※算定要件（介護職員処遇改善交付金の交付要件と同様の考え方による要件を設定。）

イ 介護職員処遇改善加算（Ⅰ）

- (1) 介護職員の賃金（退職手当を除く。）の改善（以下「賃金改善」という。）に要する費用の見込み額が、介護職員処遇改善加算の算定見込み額を上回る賃金改善に関する計画を策定し、当該計画に基づき適切な措置を講じていること。
 - (2) 介護職員処遇改善加算の算定額に相当する賃金改善を実施すること。
 - (3) 当該事業者において、(1)の賃金改善に関する計画並びに当該計画に係る実施期間及び実施方法その他の介護職員の処遇改善の計画等を記載した介護職員処遇改善計画書を作成し、全ての介護職員に周知し、都道府県知事（地域密着型サービスを実施している事業所によっては市町村長）に届け出ていること。
 - (4) 当該事業者において、事業年度ごとに介護職員の処遇改善に関する実績を都道府県知事（地域密着型サービスを実施している事業所によっては市町村長）に報告すること。
 - (5) 算定日が属する月の前12月間において、労働基準法、労働者災害補償保険法、最低賃金法、労働安全衛生法、雇用保険法その他の労働に関する法令に違反し、罰金以上の刑に処せられていないこと。
 - (6) 当該事業者において、労働保険料の納付が適正に行われていること。
 - (7) 次に掲げる基準のいずれかの基準に適合すること。
 - ① 次に掲げる要件の全てに適合すること。
 - a 介護職員の任用の際における職責又は職務内容等の要件（介護職員の賃金に関するものを含む。）を定めていること。
 - b aの要件について書面をもって作成し、全ての介護職員に周知していること。
 - ② 次に掲げる要件の全てに適合すること。
 - a 介護職員の資質の向上の支援に関する計画を策定し、当該計画に係る研修の実施又は研修の機会を確保していること。
 - b aについて、全ての介護職員に周知していること。
 - (8) 平成20年10月から(3)の届出の日の属する月の前月までに実施した介護職員の処遇改善の内容（賃金改善に関するものを除く。）及び当該介護職員の処遇改善に要した費用を全ての介護職員に周知していること。
- ロ 介護職員処遇改善加算（Ⅱ） イ(1)から(6)までに掲げる基準のいずれにも適合し、かつ、イ(7)又は(8)に掲げる基準のいずれかに適合すること。
- ハ 介護職員処遇改善加算（Ⅲ） イ(1)から(6)までに掲げる基準のいずれにも適合すること。

介護職員処遇改善加算に関する基本的考え方並びに
事務処理手順及び様式例の提示について（素案）

平成 24 年 2 月 23 日

今般、平成 24 年度介護報酬改定において、介護職員の処遇改善の取組として、平成 23 年度まで実施していた「介護職員処遇改善交付金」の相当分を介護報酬に円滑に移行するために、例外的かつ経過的な取り扱いとして、平成 27 年 3 月 31 日までの間、介護職員処遇改善加算を創設したところである。

介護職員処遇改善加算の算定については「指定居宅サービスに要する費用の額の算定に関する基準」（平成 12 年厚生省告示第 19 号）、「指定施設サービスに要する費用の算定に関する基準」（平成 12 年厚生省告示第 21 号）、「厚生労働大臣が定める基準」（平成 12 年厚生省告示第 25 号）、「指定地域密着型サービスに要する費用の額の算定に関する基準」（平成 18 年厚生労働省告示第 126 号）、「指定介護予防サービスに要する費用の額の算定に関する基準」（平成 18 年厚生労働省告示第 127 号）並びに「指定地域密着型介護予防サービスに要する費用の額の算定に関する基準」（平成 18 年厚生労働省告示第 128 号）において示しているところであるが、今般、基本的考え方並びに事務処理手順、及び様式例を下記のとおりお示しするので、ご了承の上、貴管内市町村、関係団体、関係機関にその周知をお願いしたい。

1. 基本的考え方

介護職員処遇改善加算（以下「加算」という。）は、平成 23 年度まで実施されていた介護職員処遇改善交付金による賃金改善の効果を継続する観点から、当該交付金を円滑に介護報酬に移行し、当該交付金の対象であった介護サービスに従事する介護職員の賃金改善に充てることを目的に創設されたものである。

このため、当該交付金の交付を受けていた介護サービス事業者又は介護保険施設（以下「介護サービス事業者等」という。）は、原則として当該交付金による賃金改善の水準を維持することが求められる。

なお、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具賃

与並びに介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与並びに居宅介護支援及び介護予防支援は算定対象外とする。

2. 加算の仕組みと賃金改善等の実施

(1) 加算の仕組み

加算は、サービス別の基本サービス費に各種加算減算を加えた1月あたりの総単位数にサービス別加算率を乗じた単位数で算定することとし、当該加算は、区分支給限度基準額の算定対象から除外される。サービス別加算率については、別紙1に掲げる表1を参照のこと。

(2) 賃金改善等の実施等

① 加算の算定額に相当する賃金改善の実施

介護サービス事業者等は、加算の算定額に相当する介護職員の賃金（退職手当を除く。）の改善（以下「賃金改善」という。）を実施しなければならぬ。

賃金改善は、本給、手当、賞与等のうちから対象とする賃金項目を特定した上で行うものとする。この場合、特定した賃金項目を含め、賃金水準を低下させてはならない。

※ 介護サービス事業所又は介護保険施設（以下「介護サービス事業所等」という。）のサービス利用者数の大幅な減少などによる経営の悪化等により、事業の継続が著しく困難であると認められる理由がある場合には、適切に労使の合意を得た上で、賃金水準を見直すこともやむを得ないとの解釈を示す。

なお、賞与等において、経常利益等の業績に連動して支払額が変動する部分が業績に応じて変動することを妨げるものではないが、本加算に係る賃金改善は、こうした変動と明確に区分されている必要がある。

② 介護職員処遇改善計画書の作成

1) 介護職員処遇改善計画書の記載事項

加算を算定しようとする介護サービス事業者等は、「厚生労働大臣

が定める基準」(以下「算定基準」という。) 第四号イ(2)に定める介護職員処遇改善計画書を、次の各号に掲げる記載事項について、別紙様式2により作成し、別紙様式3により都道府県知事等(介護サービス事業所等の指定権者が都道府県知事である場合は、都道府県知事とし、介護サービス事業所等の指定権者が市町村長(特別区長を含む。以下同じ。))である場合は、市町村長とする。以下同じ。)に届け出ること。

- 一 加算の見込額 3により算定された額
- 二 賃金改善の見込額 各介護サービス事業者等において賃金改善実施期間における賃金改善に要する見込額(当該改善に伴う法定福利費等の事業主負担増加額を含む。)の総額であって、一の額を上回る額
- 三 賃金改善を行う賃金項目 増額若しくは新設した又はする予定である給与の項目の種類(基本給、手当、賞与又は一時金等)等を記載する。
- 四 賃金改善実施期間 原則4月(年度の途中で加算の算定を受けられる場合、当該加算を受けた月)から翌年の3月まで
- 五 賃金改善を行う方法 賃金改善の実施時期や一人当たりの賃金改善見込額を、可能な限り具体的に記載すること。

ii) 必要書類の添付

加算を算定しようとする介護サービス事業者等は、介護職員処遇改善計画書に併せて、労働基準法(昭和22年法律第49号)第89条に規定する就業規則(賃金・退職手当・臨時の賃金等に関する規程を就業規則と別に作成している場合には、それらの規程を含む。以下同じ。)及び労働保険に加入していることが確認できる書類(労働保険関係成立届、労働保険概算・確定保険料申告書等)(以下「計画書添付書類」という。)を添付し、都道府県知事等に届け出ること。
なお、都道府県知事等は、加算を算定しようとする介護サービス事業者等が、前年度に加算を算定している場合であって、既に提出された計画書添付書類に関する事項に変更がない場合は、その提出を省略させることができる。

㉓ キャリアパス要件等届出書の作成

算定基準第四号イ(7)(以下「キャリアパス要件」という。)及び(8)(以下「定量的要件」)(以下「キャリアパス要件等」という。)については、次に掲げる基準の適合状況に於じた4の所定の率を加算額に乗じるものとする。

キャリアパス要件等については、別紙様式6のキャリアパス要件等届出書を都道府県知事等に提出していることをもって要件に適合したものとす。

なお、都道府県知事等は、加算を算定しようとする介護サービス事業者等が、過年度にキャリアパス要件等届出書の提出をしている場合において、当該届出書の内容に変更がないときは、その提出を省略させることができる。

(キャリアパス要件)

次の一又は二に適合すること。

一 次に掲げる要件の全てに適合すること。

ア 介護職員の任用の際における職位、職責又は職務内容等に応じた任用等の要件(介護職員の賃金に関するものを含む。)を定めていること。

イ アに掲げる職位、職責又は職務内容等に応じた賃金体系(一時金等の臨時的に支払われるものを除く。)について定めていること。

ウ ア及びイの内容について就業規則等の明確な根拠規定を書面整備し、全ての介護職員に周知していること。

二 次に掲げる要件の全てに適合すること。

ア 介護職員の職務内容等を踏まえ、介護職員と意見を交換しながら、賃金向上の目標及びa)又はb)に掲げる具体的な計画を策定し、当該計画に係る研修の実施又は研修の機会を確保していること。

a) 賃金向上のための計画に沿って、研修機会の提供又は技術指導等を実施(OJT、OFF-JT等)するとともに、介護職員の能力評価を行うこと。

b) 資格取得のための支援(研修受講のための勤務シフトの調整、

3. 加算の見込み額の計算
 介護職員処遇改善計画書における加算の算定額の見込み額は、次の計算による。

介護報酬総単位数×サービス別加算率（別紙1に掲げる表1）（一単位未満の端数四捨五入）×一単位の単価（一円未満の端数切り捨て）

介護報酬総単位数は、サービス別の基本サービス費に各種加算減算を加えた1月あたりの総単位数とし、算定を受ける年度における介護サービスの提供に係る見込みにより算出する。この場合、過去の実績や事業計画等を勘案し、事業の実態に沿った見込み数を用いること。

また、加算の見込み額は、各サービス別に都道府県等ごとに作成するものとし、複数の介護サービスを提供する介護サービス事業所等において、介護職員処遇改善計画書を一括作成する場合は加算の見込額の計算については、別紙1に掲げる表1に定めるサービス区分ごとに行い、それぞれのサービスごとに算出された単位（1単位未満の端数切り捨て）を合算すること。

なお、上記は計画を作成する際の加算の見込の算定方法であり、実際の介護報酬総額は、次の計算による。

(介護報酬総単位数+介護職員処遇改善加算の単位数)×一単位の単価（一単位未満の端数切り捨て）

4. 加算の単位数
- 年度内に支払われる加算の単位数は、介護報酬総単位数に、別紙1のサービス区分及び次の各号の各号のキャリアパス要件等の適合状況ごとに定める率を乗じて得た額（1単位未満の端数四捨五入）とする。
- 一 算定基準イ(7)又は(8)のいずれか一方に適合する場合 90/100
 - 二 算定基準イ(7)又は(8)のいずれにも適合しない場合 80/100

5. 加算の停止
 都道府県知事等は、介護職員処遇改善加算は、加算を算定する介護サービス事業者が次の各号の各号に該当する場合は、既に支給された加算の一部若しくは全

休暇の付与、費用（交通費、受講料等）の援助等）を実施すること。

イ アについて、全ての介護職員に周知していること。

(定量的要件)

平成20年10月から届出を要する日の属する月の前月までに実施した処遇改善（賃金改善を除く。）の内容及び当該改善に要した費用の概算額を全ての介護職員に周知していること。

④ 複数の介護サービス事業所等を有する介護サービス事業者等の特例
 介護職員処遇改善計画書は、介護サービス事業所等を複数有する介護サービス事業者等（法人である場合に限る。）である場合や介護サービス事業所等ごとの届出が実態に鑑み適当でない場合、当該介護サービス事業者等が一括して作成することができる。また、同一の就業規則により運営されている場合に、地域ごとや介護サービスごとに作成することができる。都道府県等（介護サービス事業所の指定権者が都道府県知事である場合は、都道府県、市町村長である場合は、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、以下同じ。）の圏域を越えて所在する介護サービス事業所等を複数有する介護サービス事業者等（法人である場合に限る。）に付いても同様とする。なお、この場合、別紙様式4により、別紙様式添付書類2及び添付書類3を添付して、都道府県知事等に届け出なければならない。また、介護職員の賃金改善に係る経費については、当該改善に伴う法定福利費等の事業主負担増加額を含むものとする。

なお、複数の介護サービス事業者等の介護職員処遇改善計画書を一括して作成する場合は、当該計画書に記載された計画の対象となる介護サービス事業者等の一覧表を作成し、当該計画書に添付しなければならない。

⑤ その他
 加算の目的や、算定基準イ(5)を踏まえ、労働基準法等を遵守すること。

部を不正受給として返還させると又は加算を取り消すことができる。

なお、複数の介護サービス事業所等を有する介護サービス事業者等（法人である場合に限る。）であって一括して介護職員処遇改善計画を作成している場合、当該介護サービス事業者等の指定権者間において協議し、必要に応じて監査等を連携して実施する。指定権者間の協議に当たっては、都道府県が調整をすることが望ましい。

- 一 算定要件を満たさなくなった場合
- 二 虚偽又は不正の手段により加算を受けた場合

6. 都道府県知事等への届出

加算の算定を受けようとする介護サービス事業者等は、算定を受けようとする年度の前年度の2月末日までに、介護サービス事業者等ごとに、当該介護サービス事業者等の所在する都道府県知事等に提出するものとする。

ただし、介護職員処遇改善計画書を一括して作成する場合は、一括して都道府県知事等に届け出ることができる。

また、年度の途中で加算の算定を受けようとする介護サービス事業者は、算定を受けようとする月の前々月の末日までに、都道府県知事等に提出するものとする。

7. 平成24年度当初の特例

平成24年度については、平成24年度に介護職員処遇改善交付金の承認を受けていた介護サービス事業者等は、当該承認をもって、加算の算定要件を満たしたものとみなし、当該加算を支給することとする。この場合、各介護サービス事業者は、平成24年5月末日までに、介護職員処遇改善計画書及び計画書添付書類を都道府県知事等に提出すること。

なお、介護職員処遇改善交付金の承認を受けていない介護サービス事業者等（新たに都道府県知事等の指定を受ける介護サービス事業者等を含む。）の介護サービス事業者等については、加算の算定を受けようとする月の前々月の末日までに介護職員処遇改善計画書及び計画書添付書類を都道府県知事等に提出すること。なお、当該事業者等であって、平成24年4月から算定を受ける場合は、平成24年3月31日までに介護職員処遇改善計画書及び計画書添付書類を都道府県知事等に提出すること。

8. 都道府県知事等への変更の届出

介護サービス事業者は、加算を算定する際に提出した届出書、介護職員処遇改善計画書、計画書添付書類並びにキャリアパス要件等届出書に変更（次の各号のいずれかに該当する場合に限る。）があった場合には、次の各号に定める事項を記載した変更の届出を行う。

- 一 会社法による吸収合併、新設合併等による介護職員処遇改善計画書の作成単位が変更となる場合は、当該事実発生までの賃金改善の実績及び承継後の賃金改善に関する内容
- 二 別紙様式4により申請を行う事業者において、当該申請に係る介護サービス事業所等に増減（新規指定、廃止等の事由による）があった場合は当該事業所等の介護保険事業所番号、事業所等名称、サービス種別
- 三 就業規則を改正（介護職員の処遇に関する内容に限る。）した場合は、当該改正の概要
- 四 キャリアパス要件等に関する適合状況に変更（キャリアパス要件等の適合状況ごとに定める率が変動する場合又は2（2）③一又はこの要件間の変更に限る。）があった場合は、キャリアパス要件等届出書の内容

9. 賃金改善の実績報告

介護サービス事業者等は、各事業年度における最終の加算の支払いがあった月の翌々月の末日までに、都道府県知事等に対して、以下の事項を含めた別紙様式5の介護職員処遇改善実績報告書を提出し、2年間保存することとする。

- 一 加算の総額
- 二 賃金改善実施期間
- 三 第二号の期間における次の事項
 - ア 介護職員常勤換算数の総数
 - イ 介護職員に支給した賃金総額
 - ウ 介護職員一人当たり賃金月額

四 実施した賃金改善の方法

「基本給を介護職員平均で〇〇円改善した」など、具体的に記載すること。

- 五 第四号の実施に要した費用の総額（賃金改善に伴う法定福利費等の事業

主負担増加額を含む。)

賃金改善に要した費用については内訳を記載することとする。この場合、5の第三号の書類を添付することで差し支えないものとする。また、内訳の計算に当たっては、介護サービス事業者等の賃金改善方法等に応じた適切な方法によるものとする。

六 介護職員一人当たり賃金改善額（月額平均）

第五号の額を第三号アの数で除して得た額（一円未満切り捨て）を記載する。

介護職員処遇改善加算届出書類一覧

	書類名	様式等	備考
国の様式	○届出書	別紙様式3(事業所単位届出)若しくは別紙様式4(法人一括届出)	
	○介護職員処遇改善計画書	別紙様式2	
	○介護職員処遇改善計画書(事業所一覧表)	別紙様式2(添付書類1) ※(別紙様式4での申請の場合)	
	○介護職員処遇改善計画書(都道府県状況一覧表)	別紙様式2(添付書類2) ※2以上の都道府県に事業所がある場合	
	○介護職員処遇改善計画書(市町村一覧表)(再掲)	別紙様式2(添付書類3) ※2以上の都道府県に事業所がある場合	
	○キャリアパス要件等届出書	別紙様式6	
	○就業規則	常時10人以上雇用している事業所	
	○賃金・退職手当・臨時の賃金等に関する規程(給与規程)	就業規則と別に個別作成している場合	
	○労働保険加入確認書類	労働保険関係成立届、労働保険概算・確定保険料申告書等	
県の任意様式	○介護職員処遇改善加算見込額	別紙様式7(参考) ※処遇改善計画書の記載項目①の算出のための資料	
	○介護職員賃金改善所要見込額	別紙様式8(参考) ※処遇改善計画書の記載項目②、③、⑤の算出のための資料	
備考	介護職員処遇改善計画書を職員へ通知した方法等について、別紙(任意様式)で提出してください。	任意様式。	

※1 国の事務処理手順に定める様式等は、届出に必須です。

※2 県の任意様式は、処遇改善計画書の内容を説明する資料として作成したものであり、作成が困難な場合や既存資料の写し等で説明できるときには、既存資料の写しで結構です。

介護職員処遇改善加算見込額

		法人名	社会福祉法人 さぬき会	(円)	
サービス名	事業所名	事業所番号	介護報酬総額	交付率(%)	加算見込額
・(介護予防)訪問介護	さぬき訪問介護サービス課	3770102222	2,000,000	4.0	80,000
・(夜間対応型)訪問介護				4.0	0
・定期巡回・随時対応型訪問介護看護				4.0	0
・(介護予防)訪問入浴介護				1.8	0
・(介護予防)通所介護	サービスセンターさぬき	3770102111	9,000,000	1.9	171,000
・(介護予防)通所リハビリテーション				1.7	0
・(介護予防)特定施設入所者生活介護				3.0	0
・地域密着型特定施設入所者生活介護				3.0	0
・(介護予防)認知症対応型通所介護				2.9	0
・(介護予防)小規模多機能型居宅介護				4.2	0
・複合型サービス				4.2	0
・(介護予防)認知症対応型共同生活介護				3.9	0
・介護福祉施設サービス				2.5	0
・地域密着型介護老人福祉施設				2.5	0
・(介護予防)短期入所生活介護				2.5	0
・介護保健施設サービス				1.5	0
・(介護予防)短期入所療養介護(老健)				1.5	0
・介護療養施設サービス				1.1	0
・(介護予防)短期入所療養介護(病院等老健以外)				1.1	0
合 計			11,000,000		251,000

* 加算見込額合計の額を、(別紙様式2)介護職員処遇改善計画書①平成 年度介護職員処遇改善加算の見込額(総額)の欄に記入してください。

* 介護報酬総額 介護サービスの総単位数に、地域区分に応じた単価(10円)を乗じた額です。

利用者負担額から食事代、居室代、日常生活費等個人が負担する額及び補足給付費等を除きます。

過去の実績や事業計画等を勘案し、事業の実態に沿った見込額を記入してください。

(別紙様式8)

介護職員賃金改善所要見込額

法人名	社会福祉法人 さぬき会
事業所名	さぬき訪問介護サービス、デイサービスセンターさぬき
サービスの種類	(介護予防)訪問介護、(介護予防)通所介護
事業所番号	3770102222、3770102111

○介護職員一人あたりの賃金改善見込額(12か月分)

(賃金改善実施期間:平成24年4月～平成25年3月の間の連続した12か月間)

(単位:円)

介護職員名	賃金改善に要する給与等アップ分(12か月分)(ア)						計(キ)
	基本給(イ)(※毎月 円×12ヶ月分)	介護手当(ウ)(※ 毎月円改善12ヶ月分)	処遇改善手当(一 時金)(エ)	その他(オ)	(イ)(ウ)(エ)(オ)に係 る法定福利費(事業主 負担)の見込額(カ)		
1 香川 太郎	60,000	12,000	50,000	0	14,500	136,500	
2 高松 花子	60,000	12,000	50,000	0	14,500	136,500	
3 丸亀 一郎	60,000	12,000	50,000	0	14,500	136,500	
4 坂出 梅子	60,000	12,000	50,000	0	14,500	136,500	
5						0	
6						0	
7						0	
8						0	
9						0	
10						0	
合計	240,000	48,000	200,000	0	58,000	546,000	

* (キ)の合計の額について、別紙様式2の介護職員処遇改善計画書の(1)の②に記入してください。

1 介護職員一人あたりの賃金改善見込額(12か月分)を記入してください。

○ 介護職員処遇改善加算について

平成24年3月時点で介護職員処遇改善交付金の承認を受けている事業所については、4月1日付けでみなしで加算の算定要件を満たしているものとされて、4月1日付けの加算届出が必要となります。

市町事業所の加算データは、介護報酬を国保連合会へ請求するデータ処理をするために県の介護電算システムに入力されています。上記の場合は、県の介護電算システムの介護職員処遇改善交付金の事業所データの活用で事業所からの加算の届出がなくても対応できる見通しです。

加算の届出が必要かどうかの具体的取扱いについては、指定権者である管轄の市町の介護保険担当者まで確認してください。

なお、今まで、介護職員処遇改善交付金を受けていなくて、新たに介護職員処遇改善加算を受けようとする事業者は介護職員処遇改善計画書等の届出が必要です。

(加算の届出)

- ① 介護給付費算定に係る体制等に関する届出書<地域密着型用>
- ② 介護給付費算定に係る体制等状況一覧表